

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年4月

（1）沖永良部島さとうきび生産量，35年ぶり10万t超え

沖永良部島における今年度のさとうきび圧搾が4月30日に終了しました。生産量は106,827tで昨年に比べ約2万t増収し、平均糖度は14.55度でした。生産量が10万tを超えるのは、平成元年度（114,877t）以来、35年ぶりです。さとうきびの安定生産に向けて、農業普及課は引き続き支援します。

（2）与論島のさとうきび圧搾完了，生産量23,745t

与論島における今年度のさとうきび圧搾が4月6日に終了しました。生産量は23,745tで、2年ぶりに2万t台に回復しました。単収は昨年より高い5.9t/10a、平均糖度は昨年より低い13.44度でした。昨年、11月の集中豪雨により与論島製糖会社の製糖ラインが浸水する被害があり、圧搾開始の遅れが心配されましたが、製糖会社および関係機関の尽力により、復旧が早急に行われ、予定どおりの12月16日に圧搾を開始できました。

（3）「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」始まる！

与論町は、持続可能な畜産を推進し、安心・安全な畜産物確保と産業振興を目指す「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」を今年4月に制定しました。23日に初の認定審査委員会が与論町役場及び現地農場で行われ、島内の経産牛肥育を行う法人が認定されました。同法人は食品製造副産物を活用した飼料給与、脱炭素及び資源循環等に取り組んでいます。農業普及課も同委員会の一員となっており、今後も支援を継続していきます。